

Society 5.0時代の国際教育を見据えて
—海外大学と連携して行うオンライン協働学習(COIL)とは—

池田佳子
(関西大学国際部)

本日の講演のアウトライン

1. Society 5.0の到来とデジタル世代のグローバル人材教育

時代は変化し、人材ニーズも変化する
そんな中、COIL型教育は、なぜ必要か

2. オンライン国際教育としてのCOIL/VE

実際の教室の様子を見て感じ取ろう

3. コロナ禍ですすむCOIL/VE実践事例

世界でもCOIL/VEは広がっている
コロナ禍の中のCOIL事例@関大

4. 今後の国際教育の展開

ウィズ・コロナ--ウィズ・COIL
アフターコロナの時代が来ても、COIL型教育
を途絶えさせないために

プレ・アンケート（ウォームアップ）



Society 5.0時代の国際教育を見据えて
—海外大学と連携して行うオンライン協働学習(COIL) とは—

今日は、どのようなデジタル端末から、このセミナーに参加していますか？

1 PC 2 スマホ 3 タブレット端末

私の声は、皆さんに「どんな印象で」届いていますか？

1 元気そう 2 怒ってるの？ 3 難しい先生のようにだ

Society 5.0の到来と デジタル世代のグローバル人材教育

COIL(Collaborative Online International Learning)



Society 5.0 and Education



ソサエティー5.0 (Society5.0) *とは 平成28年に閣議決定

狩猟社会 (Society1.0) 、 農耕社会 (Society2.0) 、 工業社会 (Society3.0) 、
そして現代の情報社会 (Society4.0) の次に訪れる新しい社会

現実社会のありとあらゆるものがセンサーやチップによってインターネットとつながる
情報は人間が自ら集めて解釈するものから、人間にとってより理解しやすい情報として
AI (人工知能) が解釈・加工して提供されるものになる

先端技術と社会との高度な融合  教育の世界への変革

Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会 (H30)

Society 5.0における学びの在り方、求められる人材像

A I等の先端技術が教育にもたらすもの ⇒**学びの在り方の変革**へ

- (例) ・スタディ・ログ等の把握・分析による学習計画や学習コンテンツの提示
・スタディ・ログ蓄積によって精度を高めた学習支援 (学習状況に応じたコンテンツ提供、学習環境マッチング等)

学校が変わる。学びが変わる。 ⇒Society5.0における学校 (「学び」の時代) へ

- ・一斉一律授業の学校
- ・同一学年集団の学習
- ・学校の教室での学習

共通して求められる力：文章や情報を正確に読み解き対話する力

科学的に思考・吟味し活用する力

価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力

新たな社会を牽引する人材：技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材

技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造する人材

様々な分野においてA Iやデータの力を最大限活用し展開できる人材 等

対話

活用

探求

発見

創造

展開

STEAM教育

Science (科学) ・ Technology (技術) ・ Engineering (モノづくり) ・ Art (デザイン) ・ Mathematics (数学) の頭文字で、複数の学問領域を横断的に学習・指導する教育方法

「アート」は美術だけではない

ファインアーツ (美術) 音楽芸術
体育・ダンス表現・ドラマ表現芸術
手工芸術・リベラルアーツ・言語
(社会学・教育学・政治・哲学・心理学等)



Digital Natives





Digital immigrants
デジタル移民



Digital natives
デジタルネイティブ

ITの普及以前に生まれて、だんだんと学んできた世代
移民1世はまだまだ「過去の記憶」にとらわれている。
デジタルワールドでも、移民前の「アクセント」が抜
けない。
どれぐらい日々接しているか等の経験値により、その
移民世代は多様・多層化している。

デジタルネイティブとは、子どもの頃や学生時代からネッ
トやPCのある環境で育った世代のことを指します。もとも
とは、アメリカの作家であるマーク・プレンスキーが提唱
した言葉であり、生まれた時からIT環境に囲まれている世代

「デジタルネイティブ第1世代」

携帯電話やインターネット、ホームページなどに親しんで来た世代

「デジタルネイティブ第2世代」

TwitterやFacebookなどのSNSや、YouTubeなどの動画サイトなどを使いこなす世代

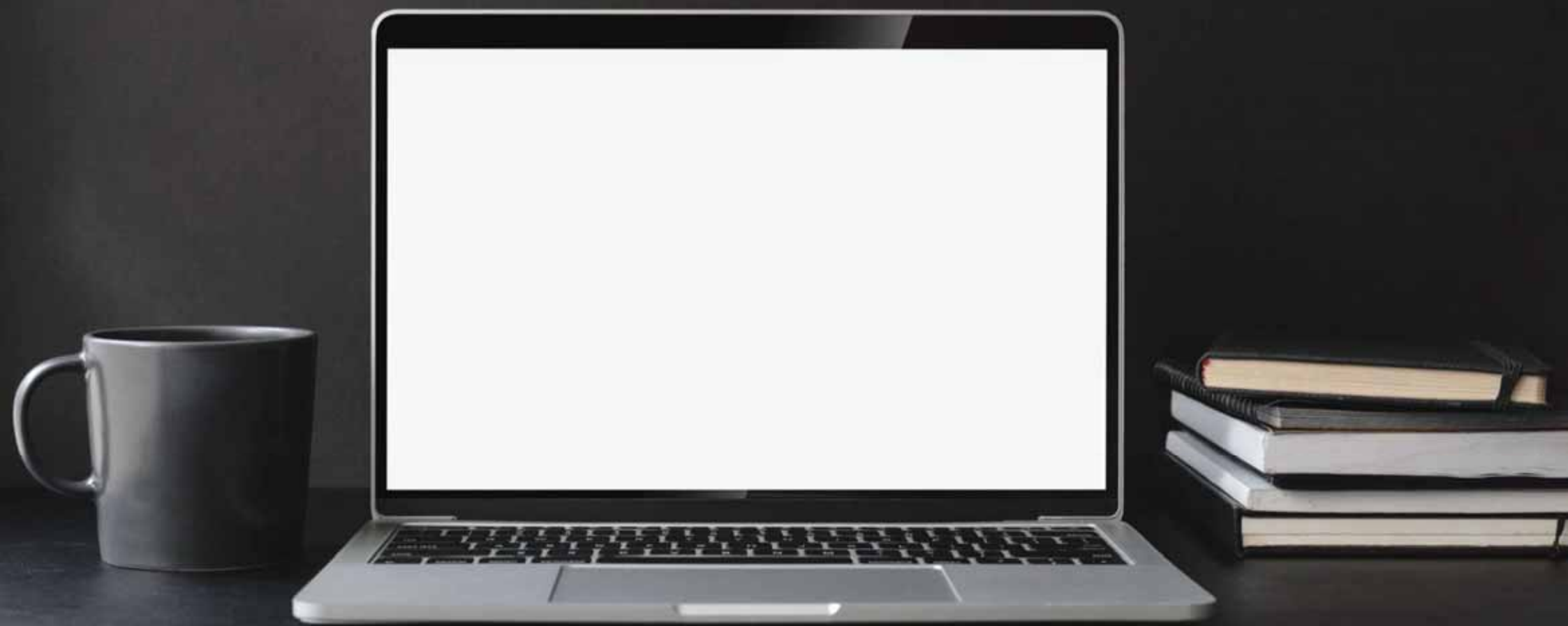
DNは、脳の使い方がそもそも異なっている？

Studies say that digital natives' brains are **more actively engaged** while scrolling through a webpage than while reading printed text
デジタル・ネイティブ世代は、ウェブページをスクロールして「読んだ」方が、印刷された文章を読むよりも能が活性化される

University of California at Los Angeles Brain Institute

<https://www.semel.ucla.edu/longevity/news/mind-what-science-says-about-digital-natives>

デジタルワールド化は進む



JAN
2020

OVERVIEW: DIGITAL IN ASIA-PACIFIC IN 2020

THE ESSENTIAL HEADLINE DATA YOU NEED TO UNDERSTAND THE STATE OF MOBILE, INTERNET, AND SOCIAL MEDIA USE

TOTAL 総人口
POPULATION



4.30
BILLION 43億

URBANISATION:

48%

MOBILE PHONEモバイル
CONNECTIONSコネクション



4.43
BILLION 44億

vs. POPULATION:

103%

INTERNETネットユーザー
USERS



2.42
BILLION 24億

PENETRATION:

56%

ACTIVE SOCIAL SNSユーザー
MEDIA USERS



2.14
BILLION 21億

PENETRATION:

50%

コロナ禍でさらに加速する傾向はあきらか
長期化している地域は特にデジタル化やインフラの環境改善が推し進められていく

JAN
2020

ANNUAL CHANGE IN DIGITAL USE IN ASIA-PACIFIC

THE YEAR-ON-YEAR CHANGE IN ESSENTIAL INDICATORS OF DIGITAL ADOPTION

TOTAL
POPULATION



we
are
social

+0.8%

JAN 2020 vs. JAN 2019

+35 MILLION

MOBILE PHONE
CONNECTIONS



+3.5%

JAN 2020 vs. JAN 2019

+151 MILLION

INTERNET
USERS



+9.2%

JAN 2020 vs. JAN 2019

+204 MILLION

ACTIVE SOCIAL
MEDIA USERS



+9.8%

JAN 2020 vs. APR 2019*

+190 MILLION

リモートワーク化も世界中でさらに進む



世界のテレワーク普及にまつわる統計

55% of businesses globally offer some capacity for remote work

世界の過半数がリモートワークを提供

18% of the workforce telecommute on a full-time basis

18%の労働層がフルタイムかつリモート

77% of telecommuters report being more productive

8割弱のリモートワーカーが以前より能率が上がったと申告

37% of remote workers say the best way to boost productivity is to take regular breaks

30% of telecommuters save upward of \$5,000 a year

リモートワーカーの3割が年に5000ドル節約できた

People who work remotely earn \$4,000 more per year on average

<https://review42.com/remote-work-statistics/>

世界のテレワーク普及率

アメリカが圧倒的に高く80%を超えている。

東京都庁が2020年5月に実施した東京都内の企業（従業員30人以上）を対象にした調査によると、2020年4月時点のテレワークの導入率は62.7%。

同年3月のテレワーク導入率は24%だったため、1カ月という短期間で40%近くも伸びている。

「DX（デジタルトランスフォーメーション）」の流れ

リモートワークの普及がもたらす「ジョブ型」採用



オンライン国際教育としてのCOIL/VE INTRODUCTION

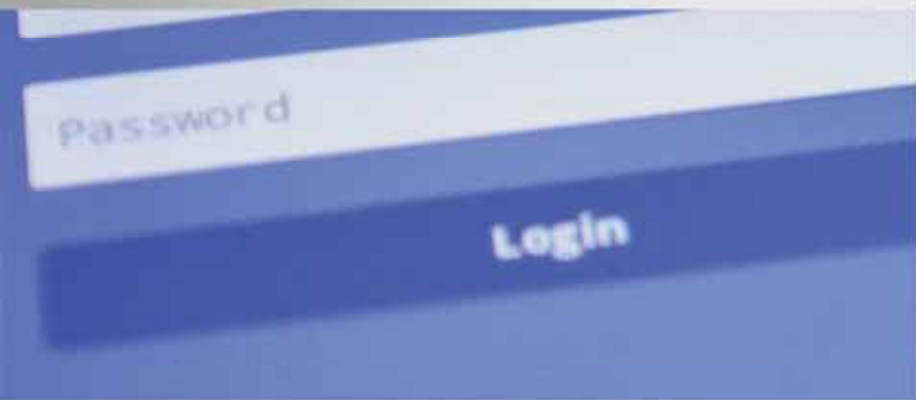
COIL(Collaborative Online International Learning)



1分でわかる

Collaborative Online International Learning

through the use of



COILの学習モデル



ICE BREAKER

互いを知り合う・チームビルディング



COMPARISON & ANALYSIS

互いの文化を知る・交換形式で情報提供を行う



COLLABORATION

バーチャルチームの協働

COILの学習モデル



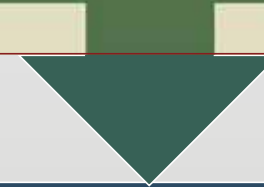
ICE BREAKER

互いを知り合う・チームビルディング



COMPARISON & ANALYSIS

互いの文化を知る・交換形式で情報提供を行う



COLLABORATION

バーチャルチームの協働

COILの学習モデル



ICE BREAKER

互いを知り合う・チームビルディング



COMPARISON & ANALYSIS

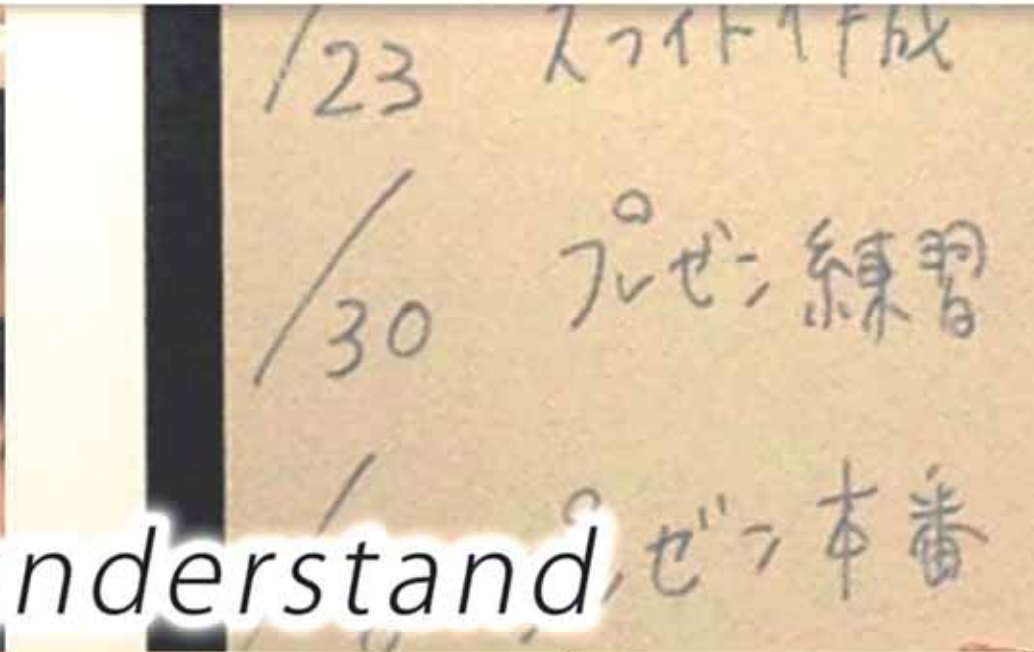
互いの文化を知る・交換形式で情報提供を行う



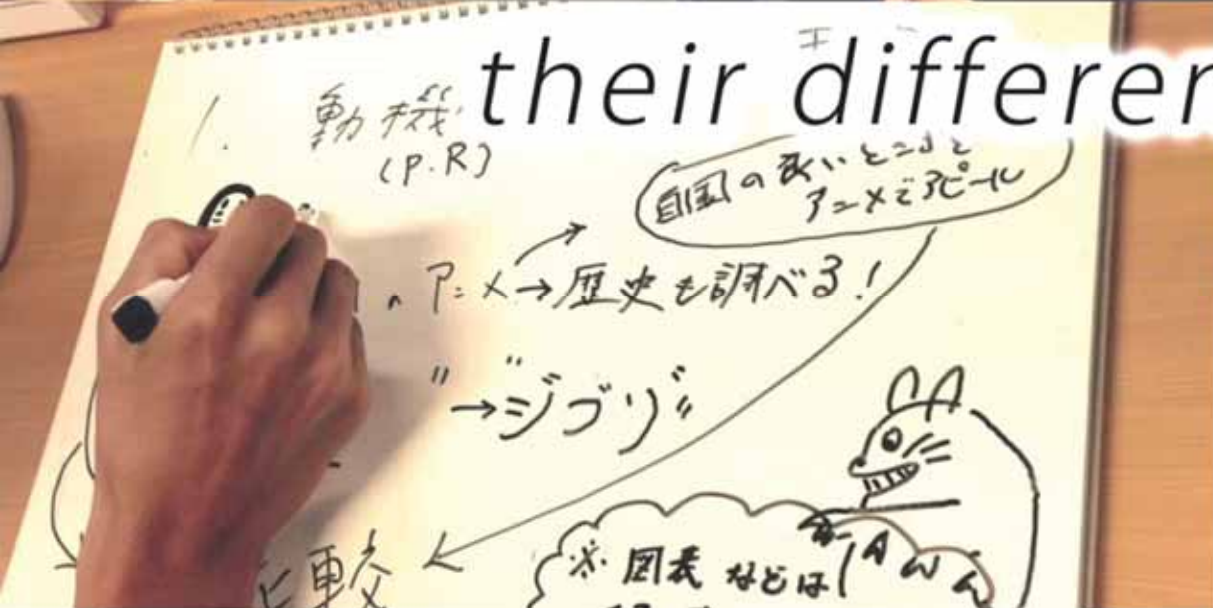
COLLABORATION

バーチャルスペースでの協働





feel and understand



their different viewpoints



International Education 国際教育

COIL型教育実践が取り込む「学習」

COIL型教育実践の中では、多くの「学び方」が応用される



Team-Based Learning (TBL) チーム型学習

チームメンバーが、チーム内外の人たちとのダイアログ（対話）を通じて、自分たちのメンタルモデルや問題の全体像を探求し、お互いの意識合わせを行うプロセスを指す。



Challenge-Based Learning (CBL) チャレンジ型学習

実社会に即した状況を学習の対象とし、そこにある複雑で解決困難な課題（チャレンジ）を自ら発見・定義付け、その解決を探り実行する。



Transformative Learning (TL) 変容学習

知識を積み重ねていく学習に対して、自分自身や世界に関する見方をシフトさせる学習



Project Based Learning (PBL) プロジェクト型学習

数学、英語など特定の科目を勉強するのではなく、プロジェクトや目標達成のために取り組む学習方法

パーツとなる学びの概念



Collaborative Learning (CL) 協働学習



Active Learning (AL) 能動的学習



Engaged Learning 関与型学習



Communication skill development コミュニケーション能力の養成

COIL型教育で涵養できる能力・特性

Intercultural
Competence

Planning/企画構成力

Teamwork/チームワーク

Digital Literacy
デジタルリテラシー

Cultural Awareness

Analysis (critical thinking)
批判的思考・分析力

Media Production
メディア制作力



1



2



3



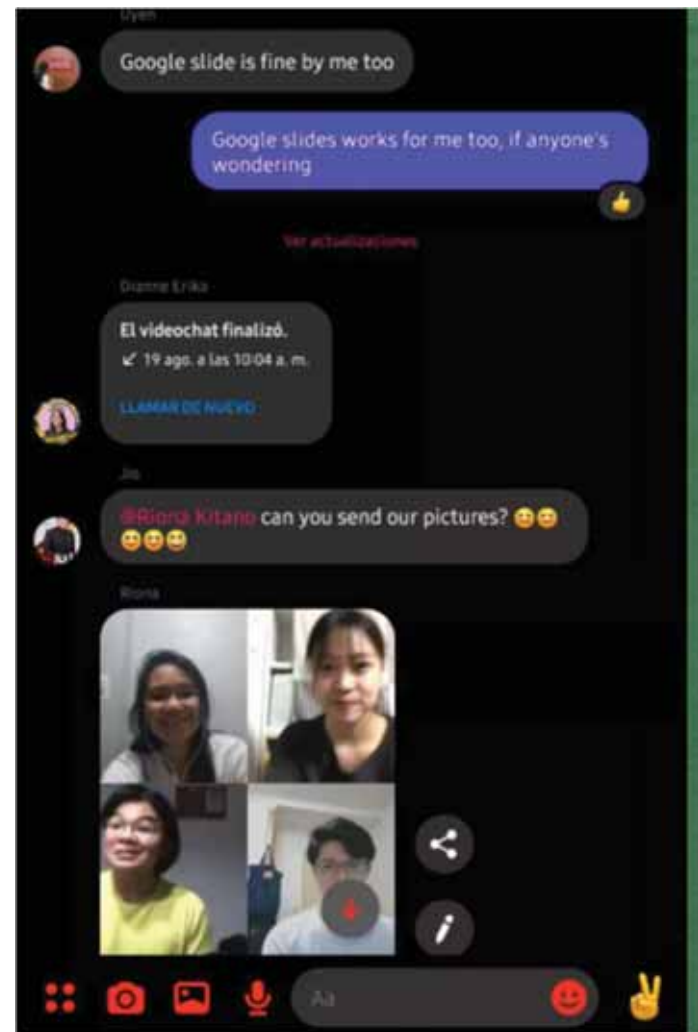
4



5



6



10. Keiko IKE... Shingo Ashizawa SHIROTO KIDA 4. Johanna N... 4. Masaki Fuji... Robin Jenkins

レコーディングしています... 02:25:29

all 5. Julianne Marie Albano

MOVE Project
Moving Urban Pools in the Philippines to Resilience

care

オンラインでのより充実した交流やアクティブ・ラーニングの手法を取り込んだ学習活動が実現することで、遠隔教育であったとしても、学習活動の充実化・活性化につなげることができる。



Creating Global Classrooms
for Future-Ready Graduates

IIGE (Institute for Innovative Global Education)
COIL Promotion 2018-2022

Building VE/COIL Community



September 2020

I-PAPER

JP/EN Bilingual Edition

VE/COIL Initiative in Japan

Virtual Mobility between Higher Education in
Japan and U.S. and regions beyond:
Case Studies and Good Practices

日本でのVE/COILイニシアティブ
日米間および他国の高等教育における
バーチャルモビリティ:
ケーススタディと実例

 Institute for Innovative Global Education

Sept issue of
i-Paper (our IIGE
journal) will share
with you

Various COIL
examples in Japan
by various
institutions

I-Paper

September 2020

目次 IN THIS EDITION

はじめに FOREWORD	1
上智大学 第1回静岡ツアー SOPHA-SHIZUKA STUDY TOUR #1 — A PERFECT MATCH HYBRID ONLINE-OFFLINE AND LOCAL-GLOBAL 幸ウオンゲン Wakyong Gen	3
COIL Plus プログラム：バーチャルエクステンションを越えて —関西大学とファッション工科大学の融合型モビリティプロジェクト— COIL PLUS PROGRAM GOING BEYOND A VIRTUAL EXCHANGE IN A BLENDED MOBILITY PROJECT BETWEEN KANSAI UNIVERSITY AND FASHION INSTITUTE OF TECHNOLOGY エルヴィタ・ウィアシー Erika Witsch	8
「平和」に関する比較研究 COIL プロジェクト COMPARATIVE RESEARCH COIL PROJECT ON "PEACE" 森井 純 Atsuki Nogi	10
千歳大学における COIL への取り組みと今後の展望 COIL INITIATIVES AND FUTURE PROSPECTS AT CHISA UNIVERSITY 高尾 佳樹 Yoshio Takemoto	14
南山大学 NU-COIL プログラム 2019 年度 国際産官学連携 PBL COIL 科目新設特選 —効果的な連携型授業の計画から実施までに必要な配慮とその見直し— INTERNATIONAL CAREER-ORIENTED COLLABORATION PBL-COIL 2019 NANSAN UNIVERSITY NU-COIL PROGRAM: COURSE PLANNING AND MANAGEMENT FOR COLLABORATIVE COURSES, AND SUGGESTED SOLUTIONS FOR THE ISSUES OF COMMUNICATION 藤井 千鶴 Chie Fujikubo	18
海外とのオンライン協働学習 (COIL) のための教育戦略 TEACHING STRATEGIES FOR COIL: COLLABORATIVE ONLINE INTERNATIONAL LEARNING (COIL) ランダー・シムズ Linda E. Sims	22
小グループでの協働活動を見直す：日米 COIL の事例 (JMU-KU) から RE-EXAMINING THE VALUE OF SMALL GROUP COLLABORATION: AN EXAMPLE FROM JPN-US COIL BETWEEN JAMES MADISON UNIVERSITY AND KANSAI UNIVERSITY ドン・バイツウス Don Bytoush 池田 佳子 Kaho Ikeda	26



ImmerseU

Login

New to ImmerseU? [Sign up now](#)

Email

Password

[Forgot password?](#)

Alyssa's Dashboard

About me
Alyssa Rogers
University: Kanda University
Major: English
City/Country: Japan
Language: Proficiency
[Edit profile](#)

Things I'm interested in:
Learning, art, people, movies, traveling, & more!

Current course(s)
Creative Thinking
Level: 1000-1001
Instructor: Timothy Pittard
Course length: 24 August - 12 December
Topic(s): Strategy, 1000, science, research, strategy
Level: Undergraduate
[View course](#)

November 2020
Calendar view showing dates from 1 to 30. [Add to Calendar](#)

Upcoming
Meetings: No upcoming meetings.
Deadlines & Tasks: No upcoming deadlines or tasks.

My pod
Find students in your collaboration and join a group!

ICTツールとクラウド型CMS(Course Management System)をCOIL実践と紐付けることで、単位化に大きく影響する学習時間の保証と可視化を実現することも、今後の活用においては重要となる。

COIL Course Planning Seminar by IIGE



新しい教育実践の波及には、「コミュニティ形成」が不可欠です。
IIGE発信で、課題を共有し、さらに関心を持つアツい教育者・関係者が考えを伝えあい、新しいシナジーを
生み出す機会を提供しています。



Institute for Innovative Global Education

Fall 2020 Training Series



関西大学
KANSAI UNIVERSITY

MOVING FORWARD:

オンライン国際教育の新たな創造

2020年11月 - 2021年3月

オンライン (ZOOMにて)

参加費：無料

2020年初期の新型コロナウイルスの拡大にともない、世界の教育者や政策立案者たちは対応を求められ、「安全を保障した上で教育を続ける」という大変困難なタスクを任せられました。先が見えない中、授業はオンラインで行われ、留学プログラムは中止または延期となりました。新学期が始まった今、学生のキャンパスライフを確保すべく施設を開放した機関もあります。日本ではハイフレックス形式で授業を実施した機関もあります。オンラインでのみ授業を展開している機関もあります。ゆっくりと慎重ではありますが、すべてが通常の状態に戻りつつあります。しかし教育者としての私たちの仕事は、まだまだ終わっていないというのが現実です。

パンデミックは、国際教育の現実をどのように変えたのか。どのような戦略や政策が私たちに前進させてくれるのか。COIL/VEは、国際教育の新しいあり方を形作るのにどのように役立つのか。

本ウェブセミナーシリーズでHIGEは

1. 国際教育の新しいノーマル：オンライン国際教育についてグローバルに話し合う場を提供し、

2. オンライン授業形式のインストラクショナルデザイン、オンライン国際教育のためのEduTech研修をご提供いたします。

司会進行



池田圭子 教授

関西大学 HIGE副構長

詳細と申込はこちら↓



bit.ly/HIGFall20JP

ご関心のある方への宣伝

2020年のHIGEトレーニングシリーズです。

一般参加可能なものもありますので、ぜひご参加ください。



TRAINING SERIES FALL 2020

MOVING FORWARD:

SHAPING THE NEW REALITY OF ONLINE INTERNATIONAL EDUCATION

スケジュール

申込締切は各セミナー1週間前までとなります。また、定員に達し次第締め切ります。
※日程変更の場合がございます。変更のある場合、随時更新します。

11月

トピックディスカッション：オンライン国際教育

11.27.2020 (金) 14:00-16:00 (JST)

使用言語：日本語

「コロナ禍で変わる国際教育」

現在コロナウイルスの感染拡大で物理的な越境を伴う国際教育交流はほぼ停止しており、オンラインを活用した新たな方法や実践が世界中で試行されている。本ウェビナーではコロナ禍による緊急対応を越えた、新たな国際教育のあり方を参加者と模索したい。



土田 浩
一橋大学

12月

ワークショップ※：インストラクショナルデザイン

12.12・19.2020 (土) 10:00-12:00 (JST)

*2日間のワークショップ (両日とも参加必須)

使用言語：日本語

「COIL/VEのためのインストラクショナルデザイン」



藤竹 啓樹
関西大学



平岡 尚士
関西大学

1月

ワークショップ※：異文化理解とCOIL

1.8.2021 (金) 9:30-11:30 (JST)

使用言語：英語

「COILによる異文化間能力の向上を理解する」



Darla Deardorff
AIEA

2月

トピックディスカッション：国際教育の次のステージ

2.未.2021 *詳細は随時更新予定

使用言語：英語

「激動と危機の時代における国際教育のリーダーシップ」



Harvey Charles
ニューヨーク州立大学アルバニ校

3月

ワークショップ※：COIL/VEのためのEdTech

3.6.2021 (土) 10:00-11:30 (JST)

使用言語：日本語・英語

「Flipgridを用いるCOIL/VE」

本ワークショップでは、COIL/VEプロジェクトのためにFlipgrid (ビデオメッセージアプリ) の活用方法を学ぶ。



エルヴィタ・ウィアンサー
関西大学 HIGE

※ワークショップはJPN-COIL協議会もしくはHIGEグローバルネットワーク会員様限定となります。

関西大学 国際部

グローバル教育イノベーション推進機構 (HIGE)

〒565-0871 | bit.ly/HIGFall20JP | 06-6568-1111 (内線 5590)



詳細と申込

bit.ly/HIGFall20JP



オンライン国際教育としてのCOIL/VE 【WORLD】

COIL(Collaborative Online International Learning)





World Trend 2020 世界の動向2020



EU

エラスムスプラス事業(2018-2022)において、Virtual Exchange・COILと留学を多様にコンビネーションで取り扱う事業に助成を開始
https://europa.eu/youth/erasmusvirtual/activity/exchanges_en

Germany

DAAD (German Academic Exchange Service/ドイツの国際教育・国際開発の機構) が2020-2021でドイツの大学機関と海外の大学の間で展開するオンライン教育 (Virtual Exchange/COIL) に助成を開始
<https://www.daad.de/en/information-services-for-higher-education-institutions/further-information-on-daad-programmes/ivac/>

USA

ACE(American Council on Education)が2020年に米国外務省 (大使館) Japan-U.S. COILイニシアティブを開始、30の日米大学が採択
<https://www.acenet.edu/Programs-Services/Pages/Communities/US-Japan-COIL-Initiative.aspx>

France

FACE Foundation (仏米文化教育芸術交流を支援する財団) が2020年からCOIL等の活動を行うプロジェクト1件につき80万円(7500USD)程度の助成金を設置
<https://face-foundation.org/higher-education/transitioning-to-virtual-exchange/>



Features

More Virtual Exchange/COIL

Support

RAPID RESPONSE VIRTUAL EXCHANGE/COIL TRANSFORMATION LAB: U.S.–NORWAY

These difficult times mean we need to find innovative ways to sustain learning and connections throughout our global higher education community. As many colleges and universities face uncertainty about in-person learning and physical mobility, the need for helping all students continue to learn global skills remains certain.

In response to the current global conditions, ACE is working closely with the global higher education virtual exchange community to strategize effective ways to equip institutions with the skills and resources to adapt their physical education or academic exchange programs into quality-assured, high-impact virtual exchange/collaborative online international learning (VE/COIL) programs.



Universidad Veracruzana

Dirección General de Relaciones Internacionales



ENCUENTRO DE INTERNACIONALIZACIÓN:

GESTIÓN Y ESTRATEGIAS PARA EL APRENDIZAJE COLABORATIVO INTERNACIONAL EN LÍNEA

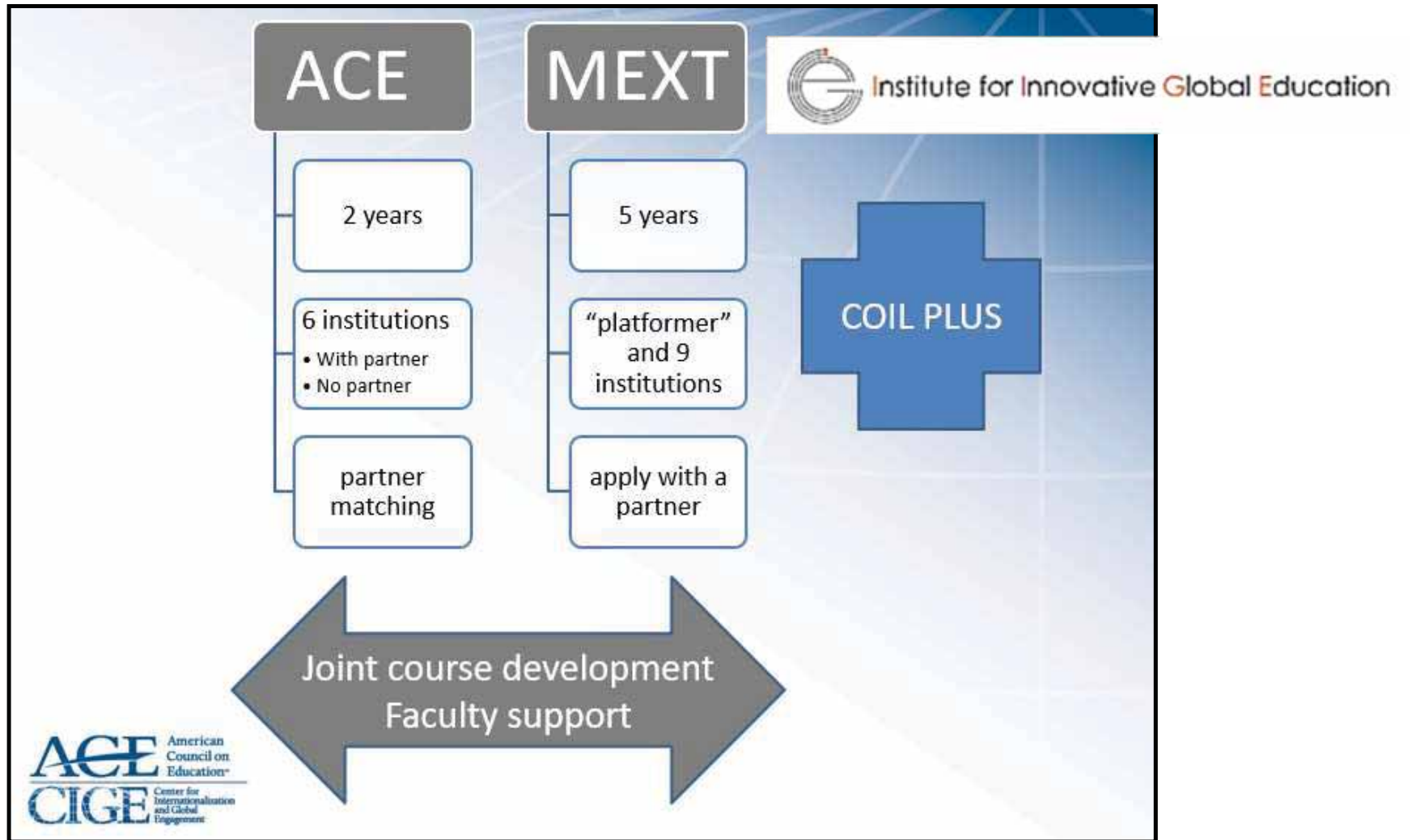
12 al 16 de octubre de 2020

Active Network Institutions

 Universidad Veracruzana	UDEM Universidad del Estado de México
 unesp	 Institución Universitaria
	



Japan-US COIL Initiatives





U.S.-JAPAN COIL INITIATIVE
#USJPCOIL
Supported United States-Japan Institution COIL Teams



ACE RAPID RESPONSE VIRTUAL EXCHANGE/COIL TRANSFORMATION LAB

Group 2 – Weekly Check-in

Wednesday, July 23 @8:30 a.m.-9:30 a.m. (JST)

Tuesday, July 22 @19:30 p.m.-20:30 p.m. (EDT)



Facilitators: Keiko IKEDA, Don BYSOUTH, Elvita WIASIH

RAPID RESPONSE COIL
TRAINING 2020

ACE JAPAN-US COIL





3. コロナ禍ですすむCOIL/VE実践事例

COIL(Collaborative Online International Learning)

コロナ禍中におけるCOIL

夏の長期休暇は学生が海外での学びや生活を体験して視野を広げるチャンスだが、新型コロナウイルスの感染拡大で、今夏の留学プログラムは相次いで中止された。こうした状況でも異文化に触れる機会を設け、国際社会で対応する力に身につけさせようと、各大学は知恵を絞っている。

(生活教育部 佐々木倫)

コロナ禍でも長期休暇生かそう

■学生の顔すらり

世界中の様々な場所にいる学生の顔が画面に映し出され、英語で議論が交わされた。関西大(大阪府吹田市)が7月末から9月まで7週間にわたって実施しているオンライン留学プログラム。「持続可能な開発目標(SDGs)」をテーマに、日本の学生32人と、フィリピン、チリ、カナダなど13の国・地域の108人が英語での講義を視聴し、討論や発表に取り組み。

関大は昨年度、30の短期留学プログラムを用意し、633人が渡航。今年度も同規模のプログラムを予定していたが、夏は全て取りやめた。多数の国の学生が集まる留学に近い環境をつくらうと、アジアや北南米などの国・地域でつくる「アジア太平洋大学交

オンライン留学 世界と活発議論

流機構(UMAP)」と協力して参加者を募った。

3日は、イギリスのNPO団体の代表ら2人が講演。東日本大震災で被害を受けた岩手県釜石市を毎年訪れているといい、住民による地域の活動を紹介した。学生が5、6人のグループに分かれて講義内容について話し合った。関大経済学部2年松井海夏さん(21)はグループ唯一の日本人として、当時住んでいた静岡県で揺れを感じた経験を語った。「英語の表現が出てくず、悔しさを感じることもある」といい、熱心に学ぶ。

同学部4年浜崎優さん(22)は春からフィリピンへ長期留学する予定だったが、コロナ禍で中止になり、講義に参加。「現地での留学よりも英語を聞き、話す量は少ないが、オンラインで多くの国の人と交

関西大	世界中の大学生と英語で講義を受けるオンライン授業
阪南大	英語、中国語、韓国語の夏期集中講義
関西学院大	協定大学のオンラインプログラムを紹介。受講した学生には2万円を支給
広島大	協定大学のオンライン授業参加者を募集
徳島大	オンライン短期留学を紹介。学生に1万~3万円の特別奨学金を給付
松山大	フィリピンの語学学校のオンラインレッスン90回を1000円で提供。定員は100人

各大学が提供するプログラム



世界各国からオンライン留学プログラムに参加する学生ら(3日、大阪府吹田市)＝長沖真未撮影

フィリピン	63
日本	32
中国	11
チリ	9
インドネシア	6
マレーシア	4
アメリカ	3
台湾	3
ベトナム	3
タイ	2
バングラデシュ	1
カナダ	1
メキシコ	1
イギリス	1

※関西大の授業に参加する大学生の国や地域と人数

オンライン国際協働学習

他国の大学の学生とオンラインで共に学ぶ海外連携協働学習(COIL, コイル)が注目されている。日本の大学がこの手法に先駆的に取り組んできた関西大学の池田佳子教授に話を聞いた。



池田 佳子 関西大学教授

世界中の大学の国際教育に「ブレキ」がかかっている。新型コロナウイルスの感染拡大が3月から「世界同時閉校」の状態が続き、米国ではカリフォルニア州を皮切りに、各州の主要大学が軒並み休学期もオンライン教育を続けることを決めた。各国の国境閉鎖は感

3波」に備え、厳しい体制を崩さないだろう。この状況下で海外連携協働学習(COIL)への注目度が高まっている。学生が海外で高い世代の仲間とICT(情報通信技術)ツールでつながり、4～8週間かけて一つのプロジェクトに取り組み教育手法だ。海外大学と国内大学がそれぞれ開設する授業の間でマッチングを行い、双方の学生がチームを組んで協働学習を行う。時差や開講時間の違いなどを考慮し、交流は同時双方向のこともある。事前録画などを使った非同期型で行うこともある。標準的な学習モデルでは①アイスブレイキング②文化比較検証③協働学習④の3段階で活動が進む。プロジェクトの内容は調査が比較的多い。例えば「スマートフォンの普及状況」(一方の国

次世代社会を模擬体験



関西大学で行われたCOILの授業

共通する社会問題」なトピックを担っている。学生はその中で時には摩擦も経験しながら、様々なすべを駆使して物事をやり遂げる。この活動は十数年前、米ニューヨーク州立大学になった。欧州や米国、チャルナオフィス環境で始まった。留学をした東南アジア諸国連合(ASEAN)の大学ネットワークで、COILやパキスタンの「模擬体験」の機会を提供するのが狙い。米国では最近でも留学を経験できる大学なしたウェブセミナーなどが計画されている。今の状況でCOILの生い出会うことは非常に難しいが、オンライン上では容易だ。世界中の学生間のコミュニケーション構築(コミュニケーション)を促進する草の根「グローバル市民教育」の推進もCOIL型教育の理念の一つである。リアルな留学では、ど

COILの学習モデル

アイスブレイキング

テレビ会議や紹介動画の交換などを通じて距離を縮める

文化比較検証

同じテーマで互いの国の状況を調べ結果を交換、比較検証する

協働学習

両国の学生が共同でまとめた資料や動画を作り、発表する

4～8週間程度

い2～3の国・地域を少しずつ体験する程度に限られる。COIL型実践を世界中の大学などと展開すれば、経験できる範囲は無限に広がる。より多くの国の人々とオンラインで出会い、視野を広げることができる。

日本の学生が世界の仲間と触れ合え、自分の舞台は世界だという高い意識を持ってほしい。そんな思いから私がこの実践を始めて6年がたつ。日本国内では新常態の働き方や生活様式が指摘されているが、「国際教育の新常態」を考えようとする動きは鈍いようだ。これまで日本の大学の国際教育は海外留学と受け入れ、つまりモビリティ(移動)を伴う活動に「一極集中」してきた。短期の語学研修なども含めた「全留留学」を進める大学や学部もある。

この大きな方針の急転換は難しいだろう。「状況が落ち着いたら、また留学を始めたい」と考えるのも分かる。しかし「以前と変わらない平常」は、少なくとも数年先まで見込めない。

参加者の募集を始めたところ、今夏留学する道が断たれた学生たちから活発な応募があった。彼らの学びをしっかりサポートしていきたい。

世界中が留学先に ■ 移動中心から転換

コロナ禍だからこそ、取り扱うべきテーマを選択してCOILを実践する



持続可能な開発目標

COIL/VEで推し進める「地球市民教育」

「地球市民性」を法律に基づく集合体という認識ではなく、「**グローバルな社会と共通する人間性への帰属意識**」（グローバルな連帯・主体性・責任性を有する感覚、行動を起こすこと、普遍的な価値に基づきその価値を尊重すること）と定義

その目的として、行動に参加し、積極的な役割を担うこと（グローバルとローカルの両方の文脈において、グローバルな挑戦に挑み、解決にむけて）や、能動的な寄与者になること

教育形態や世代を超えた学習者のエンパワーメント（若年・ユースの学習者、学習グループの重要性）を行うこと

地球市民性教育（GCE）に必要な資質・能力

グローバルな課題や傾向に対する知識と理解、批判的思考能力、コミュニケーション能力、行動に参画するための態度、情動的・社会的能力としての共感性と態度

政治的、社会的、文化的、宗教的な環境に対してオープンであること
課題の批判的分析を可能にし、差異性と多様性を尊重し、行動をとることに責任をもつこと

Global Citizenship Education 「地球市民教育」

SDGsをテーマとすることでよりGCEを
遂行することができる



いったんチームとして成立したら、
考え方の異なりも、文化摩擦も、乗
り越えて最終アウトプットを出さな
ければならない

今後の国際教育の展開

With CORONAVIRUS

With COIL/VE

-ウィズ・コロナ、ウィズ・コイル-

COIL(Collaborative Online International Learning)





COIL型教育の発展型 (COIL 2.0)

様々な実践目的と連携の形に合わせたオンライン国際教育を展開しています

- 【1】 言語学習を主目的としたCOIL (本学名称「Language Learning COIL/LLC」)
- 【2】 複数大学が連携して行うCOIL (本学名称「Multilateral COIL-協働構築型」)
- 【3】 IIGEが開発したカリキュラムを多数の大学の学生に提供するCOIL/VEプログラム (本学名称「Multilateral COIL-IIGE発信型」)
- 【4】 国内大学（本学）と海外大学の間で科目履修を許可する相互履修型COIL/VE
※ただし単なる授業参加を行うのではなく、その科目内においてCOIL実践を行う (本学名称「KU-Engaged/Exchange Online Learning/ KU-EOL」)
- 【5】 バーチャルインターンシップ型COIL (本学名称「VIS-COIL」)



Kansai University Engaged/Exchange Online Learning (KU-EOL)

2020年度秋学期 関西大学 交換留学プログラム

October 1st to December 14th, 2020 (JST)
2020年10月1日～12月14日 (日本時間)



Want to know what it's like to study
at KU, Japan? Join us to take
classes with KU students!

Kansai University
pivoted online for
various international
programs



今後さらに進むオンライン教育

COIL教育実践を通してわかってきたこと

オンライン教育・学習の功罪 1

オンライン教育は、魔法ではない

オンライン教育が可能にしていることは多くある

- 空間上の制約を減らす（なくすことはできない）
- それぞれに学習の進捗の自由を与えること

だがオンラインコミュニケーションの「不自由」も多くある

- 受け手と話し手の相互で思う「共有された情報」の幅の誤差が大きい（「面白い」と思って聞いているのにもかかわらずそう見えない 等）

—演習や実践を伴う学びをオンラインやバーチャル上だけで仕上げるのは無理

- 人間の「学び」は多次元・多側面にわたる（匂い・色・身体・温度等）



オンライン教育・学習の功罪 2

デジタルデバイド (Digital Divide/情報格差)

- Digital Divideはインターネットアクセスの有無、だけではない
- アクセスがあっても、積極的な参加がままならないインフラ/個々の学習者のおかれた環境などへの対策も必要
- インターネットの活用能力の格差は、より深掘し、分析し理解するべき

(★図書館、の役割はここにできてくる)



オンライン教育・学習の功罪 3

従来型の国際教育のソーシャル・デバイド（社会格差）がより明るみになった

- ー留学が出来ている学生は思っているよりも本当に少ないが、国際教育を求めている学生層は膨大な広がりを見せている
- ーソーシャルメディアやデジタル世代の到来が、従来は考えていなかった「遠い」機会を遠く感じさせてない
- ー世界全体の国際教育とequity（衡平・公正）を重要視すると、従来の国際教育の手法は格差を改善するスピードが遅い

インクルージョンがより前出すべきである国際教育が、従来型では実際のところその逆の結果を生み出してきてしまっているかもしれない。オンラインによる国際教育がその打開策となるように、仕掛けていく必要がある。



★さいごに★

スマートキャンパスが必要とする
「図書館」の在り方

COIL/VEを推進していくその先にあるもの



スマートキャンパス: 3つの「スマート」



Smart Living
スマートリビング



Smart Learning
スマートラーニング
(COIL/VE含む)



Smart Safety &
Security
スマートセキュリティ

<https://www.wrl3d.com/blog/introducing-heatmap-visualizations-in-wrld/>

<https://www.dotmagazine.online/new-work-and-digital-education/ICT4D/smart-campus-merging-smart-city-and-smart-home-in-education-for-digital-natives>

Blended Learning and Smart Campus ブレンド型学習とスマートキャンパス

Brick-and -Mortar Classroom
同一空間教室での学びスペース



University Campus
大学キャンパス



Virtual Cloud Classroom
バーチャル&クラウド型の学び
スペース



Build for books, but now for people



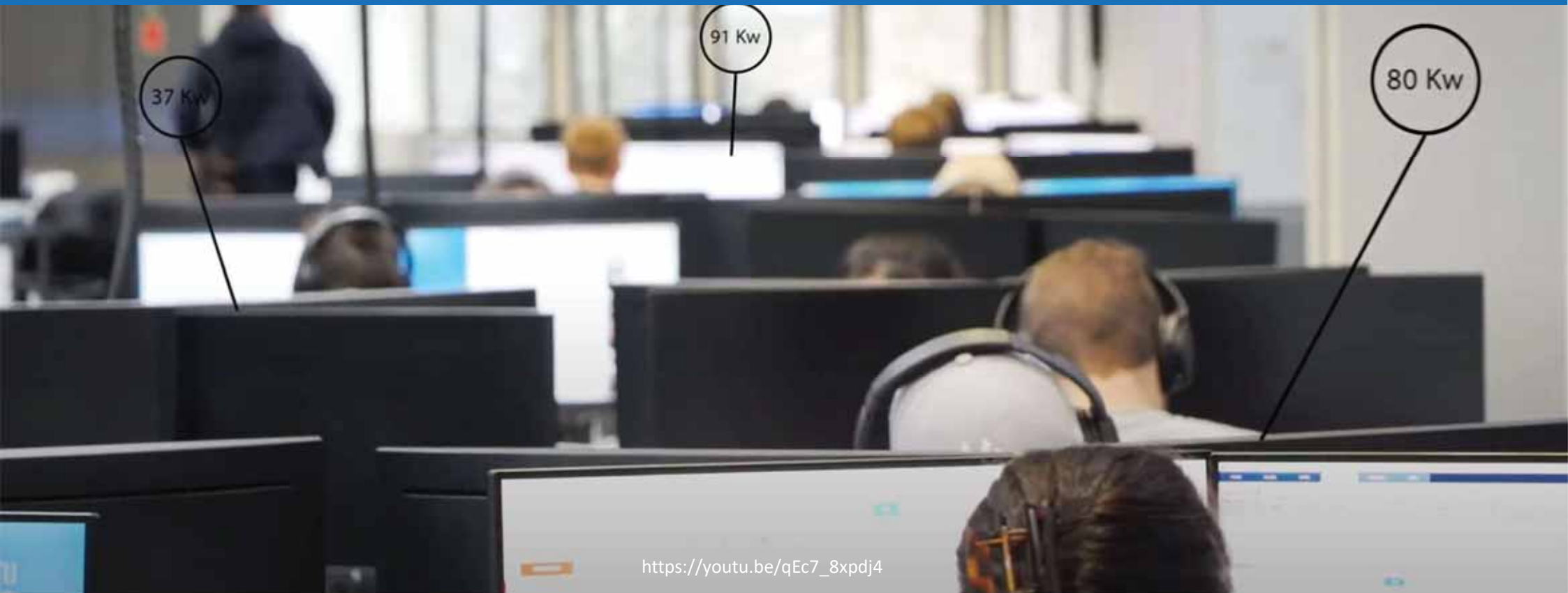
図書のために建てられて空間だったが、今は人のためにある空間である



「スマートライブラリー」という考え方

コロナ禍で、従前の「スマートライブラリー」の在り方も、再考する必要性がでてきたのではないのでしょうか。

大学全体でそれは言えることです。



Improving the Campus Experience



コロナ禍の中にあっても、安心してグループワークやオンラインコラボレーションができる空間としての「図書館」

「大学キャンパスへ足を運び、自由に学ぶ」 その中心的な担い手に、図書館がなる



The Sticky Campus – a place where students *choose to be* rather than *have to be*.

<https://hmcarchitects.com/news/distance-learning-in-the-time-of-covid-19/>



creative

Teaching

solution

think

?

= IDEA

COIL型教育が最終的に目指すのは、Society 5.0時代のグローバル人材の育成です。その環境となる種々の要素がありますが、図書館は非常に重要なポジションにあります。